

「学力アップのためのあなたへのメッセージ&ヒント」冊子概要紹介

【中学校版】

作成：春日市学校教育研究会・春日市教育委員会

保護者の皆様へ

確かな
目標
見通し
志
を！

育てよう！子どもの「自己学習力」！！

子どもたちにはこれからの社会を生きていく上で不可欠な「自己学習力」(学力)を身につけることが求められます。これを支援するため、標記の初版冊子を作成し活用することとしました。その概要に目を通していただき、お子様の自学を見守っていただくようお願いいたします。なお、短期間で作成したことから、十分でないところがあります。今後、よりよい内容へと改訂を重ねていきたいと考えています。

その1

学力はなぜ必要ですか？

- ① 生きる力「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を培うためです。生きる力を支えるひとつに「学力」があります。
- ② 将来の進路選択の幅や自分の中にある可能性を掘り起こして、その幅を広げるために学力を高める必要があるからです。

学力を高めるためには、学習の仕方の工夫を！

学習の仕方は、教科に応じてそれぞれ異なる所と同じ所があります。授業で、また家庭学習で、教科に応じた学習の仕方を身につけることが必要です。

その2

学習の仕方の紹介①（共通する学習の仕方・心構え）

- 1 「先生への相談」
 - ・自分のよさや工夫しなければならないことに気づくことにつながります。
- 2 「友だちとの討論や共同作業」
 - ・いろいろな情報を知り、新たな情報をつくり出すことにつながります。
- 3 「ノートの使い方の工夫」
 - ・余白の活用（補足、疑問等の書き込み）は学習内容の理解を助けます。
- 4 「単語カードの活用」
 - ・理解や記憶が進み、学習内容の定着につながります。
- 5 「復習」「予習」
 - ・復習は学びを定着させ、予習は新しい内容の吸収力をつけることにつながります。
- 6 「成績の記録化」
 - ・自分の伸びや課題が見えてきます。
- 7 「学習資料等の仕分け」
 - ・学んだことの整理整頓は、次の学習へ生かしやすいです。



学習の仕方の紹介②（国語科）

- 1 国語の授業では
 - (1) 目的（課題）をもって取り組む
 - 教科書の横に載っている言葉から「何を身に付けるのか」「何ができるようになるか」「何を学ぶのか」を考えながら授業を受ける。
 - (2) 自分の考えは理由（根拠）をあげて説明できるようになる
 - 筆者の表現や構成の工夫とその理由などを説明出来るようにする。
- 2 家庭学習では
 - (1) 復習はその日のうちに
 - 学習内容に加えて、自分が考え方したこと、感じたことをノートにまとめる。
 - (2) 学習をもとに文章を書く
 - 学習した書き方をもとに1000字程度の作文を書く。
- 3 国語の授業以外では
 - (1) その①「話す・聞く」
 - 学習した「話し合いの仕方」を使って、学級活動やいろいろな教科で話し合う。
 - (2) その②「書く」
 - 学習した「書き方」を使って、他の教科でも文を書いて説明する。

学習の仕方の紹介③（社会科）

- 1 社会科学力アップのための「やる気」
 - (1) 苦手意識を克服するための学習漫画のすすめ
 - (2) ニュース・新聞に出てくる事柄を調べる
 - ①地理的分野
 - ・ニュース・新聞に出てきた国を地図帳を参考に探し、白地図に色を付ける。
 - ・ニュース・新聞に出てきた国の記事を貼ったりコメントを書いたりする。
 - ②歴史的分野
 - ・ニュース・新聞から歴史に関する記事をノートに貼りまとめる。
 - ③公民的分野
 - ・ニュース・新聞から政治や経済等に関する記事をノートに貼りまとめる。
 - ・地域版から地域に関する記事をノートに貼りまとめる。
 - (3) テーマを決めてレポートやノートにまとめる。
- 2 社会科学力アップのための「やり方」
 - (1) 社会科全般について
 - ①ノートの工夫（1/4～1/3の余白を作り、用語の意味や解説を書き込む）
 - ②復習（毎日復習と定期的復習を大切に）
 - ③教科書の音読（まとめを音読、蛍光ペンやシートを使って音読など）
 - ④一問一答や基本問題の繰り返し（いつ・だれが・どこで・何を・なぜどのように）
 - ⑤総合練習問題（繰り返す中で問題の傾向やパターンがわかるようになる）
 - (2) 分野別の学習のポイント

- ① 地理的分野（白地図やグラフを活用する）
- ② 歴史的分野（年表を作ったり、しくみ、文化等ごとに比較して調べる）
- ③ 公民的分野（似たような機関や組織を表や図にまとめ、矢印などで関係を表す）

学習の仕方の紹介④（数学科）

1 身近な数学を感じたり、意識したりすることのすすめ

- (1) 数学のおもしろさを体験する
 - ゲーム、数あてクイズ、平均点、バーコード、降水確率、壁の模様、ビルの形など身近な数学を見つける。
- (2) 数学の表現を身に付ける
 - $+$ $-$ \times \div などの記号や文字（未知数、変数）の使い方に慣れる。

2 領域ごとの学習内容全体をつかみ自己チェックしよう

- 数と式（正の数、負の数を用いた表現、処理など）
- 図形（三角形の合同条件や相似条件を用いた図形の考察など）
- 関数（表、式、グラフを関連付けた関数の性質調べなど）
- 資料の活用（確率を用いた考察、表現など）

3 学んだことの活用

- 事例①「関数」（対応表やグラフから数量や直線の変化をとらえる例）
- 事例②「数と式」（求めたい数をXと置き、数量を表して、等式に表して解く例）
- 事例③「図形」（二つの三角形の合同を証明する例）

学習の仕方の紹介⑤（理科～事例を中心に～）

1 「なぜ」を追究する理科学習に親しもう

- (1) 活動の中で「なぜ」「こうなるかな」といった疑問や予想を書き留める。
- (2) 観察や実験の流れ・手順をつかむ。

〔観察や実験の流れ・順序〕

- ① 自然の事物・現象への働きかけ（問題の発見につながる）
- ② 問題の把握・設定（追究していく問題を明らかにする）
- ③ 予想や仮説の設定（問題に対する考えを明らかにする）
- ④ 検証方法の立案（観察や実験の手続きや手段を明らかにする）
- ⑤ 観察や実験を通して検証（予想や仮説が正しいかどうかを検討し、結果をまとめ、自然のしくみやきまりを見つける）

2 理解を深める「まとめノート」の書き込み方

- (1) 図、グラフ、記録、写真を使って、見て分かるような図解にする。（事例①）
- (2) 図は小さく書かず、周りに書き加えられるような余白を取る。（事例②）
- (3) 計算がある場合には単位や位取りに気をつける。（事例③）

3 練習問題の取り組み方

- (1) 問題を解いて答え合わせをする。間違った問題は赤ペンで直す。
- (2) 「どうしたら問題が解けたのか」「どこを間違えたのか」「何がわかっていなかったのかを」明らかにする。
- (3) 理科が苦手な人は、「問題用ノート」を作り、先に回答や説明を見て書き込む。
- (4) 答えを見たり説明を読んで、教科書を何度も読む。

学習の仕方の紹介⑥（英語科）

1 英語は4つの技能を高めるために

- (1) 聞き方「発音、イントネーションの法則をつかむ」
 - 大切な単語は強く・長く、そうでない単語は弱く・短く。
- (2) 話し方「音声面での技術」「表現のための必要な単語や表現知識」
 - 音声（発音やイントネーション）＋単語や表現の知識＋意欲・積極性
 - 音読、英作、単語練習、ワーク
- (3) 読み方「声に出して読む」「文章を読んで内容を理解する」
 - 「だれが」「何を」「どこで」「いつ」を押さえて読む。
 - 肯定文は、主語「だれが」・動詞「～する・～である」から文が始まる。
 - うしろから前に訳しながら読むと時間がかかる。
- (4) 書き方「ひとつの単語や文を正しく書く」「伝えたいことを英語で書く」
 - 単語練習で単語力を高めたり、文法を理解したりする。
- (5) 「聞く」「話す」「読む」「書く」の組み合わせ「英語力を高める」
 - 「相手の話を聞いて返事をする」・・・ 「聞く」と「話す」
 - 「ニュースを聞きながらメモをとる」・・・ 「聞く」と「書く」
 - 「メールを読んで返信する」・・・ 「読む」と「書く」
 - 「本を読んで感想を述べる」・・・ 「読む」と「話す」

2 英語力を高めるために

- (1) 英語は才能ではなく努力で伸びる
 - 英語にふれる時間をふやす。
- (2) 間違いを気にせず、積極的に英語を使う
- (3) 「習うより慣れろ」
 - 英語教育の番組視聴
 - 映画やドラマを英語で視聴
 - 英文で日記やメール
- (4) 授業に楽しく参加するために

○単語調べの予習を	○単語や本文は大きな声で
○できるだけ日本語を使わずに	○文の組み立てに気をつけて
○恥ずかしがらず積極的に	○必ず復習を